

世界医学教育連盟世界会議 2019 の件

1. 出張期間 : 2019年4月7日(日)～9日(火)
2. 出張先 : ソウル(韓国)
3. 出張者 : 羽鳥常任理事
(随員) 国際課 能登課長
4. 内 容 :

世界医学教育連盟(World Federation of Medical Education: WFME)が主催する標記会議に、世界医師会クロイバー事務総長から本会横倉会長への参加要請に応じ、羽鳥常任理事が出席した。

WFMEは、世界のあらゆる国における医学教育のすべての段階—卒前医学教育、卒後医学教育、生涯教育—における質の改善に取り組む組織であり、医学教育における最も高度な科学的かつ倫理的スタンダードを推進し、学習法、新たな教育機器、革新的管理を推奨している。

本会議は、「21世紀における医学教育の質的保証」をテーマに、医学教育から医師のキャリアを通じての生涯教育、認定プログラムにおける諸問題、認定機関の取り組み、卒後教育の質向上のための基準と認定、将来における認定及び承認、ECFMG(外国医学部卒業性のための教育委員会)プログラム等をテーマに、全体会議、分科会シンポジウム形式で行われ、世界56ヶ国、約800名が参加した。

世界医師会からはオトマー・クロイバー事務総長、日本からは本会の他、日本医学教育評価機構、日本医学教育学会等からの出席があった。

会議は冒頭、WFME デビッド・ゴードン会長、韓国医師会デージーップ・チョイ会長の挨拶が行われた。ゴードン会長は、1988年のエジンバラ世界会議における「医学教育に関する宣言」や、2003年コペンハーゲン世界会議の「医学教育のためのWFME標準」等、これまでの世界会議はここ数十年の医学教育の発展における礎石となるものであり、今回の会議も同様に重要であることを述べた。

主な講師は、ACGME(米国卒後医学教育認定評議会)CEOのトーマス・ナスカ教授、元WHO医学教育共同研究センター副所長、WFMEの特別顧問のジャネット・グラント名誉教授、オーストラリア医療協議会のテアンヌ・ウォルターズ副代表であった。